



10月28日(日)は、三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジで行われたYMCAフェスタに参加しました。今年のクラフトワークは、アイロンビーズと塗り絵。アイロンビーズは、下絵(海の生き物や船、スイカなど)を何種類も用意して、子どもたちが、その中から図柄を選んで作っていきます。人気は、イルカとカメでした。会場



では、本研究所の活動の様子を、写真と海洋教育ネットワーク通信で紹介しました。県立海洋科学高校やかながわ海岸美化財団の展示もありました。



11月3日(土)は、県立海洋科学高校の学校祭に出かけました。校長先生にご挨拶した後、会場を回りました。生物研究会?が作成した「骨格透明標本」を購入して、市内の学校に配布することにしました。



もちろん、模擬店も多く出ていましたが、研究した成果の発表もありました。航海シミュレーションの体験もできました。

東京大学三崎臨海実験所のコーナーもあり、クイズに答えて、お手製のしおりをいただきました。

11月8日(木)に、南下浦中学校の2年生が、イカの解剖の授業を受けました。イカは、石川県の能登町、小木漁港から冷凍で送っていただきました。



映像を使って、イカの生態を見た後、まず外観の観察。ろうとや触腕(イカの10本の足のうち、長い2本、獲物を捕食するときなどに使う)を観察していきます。

続いて解剖に移りました。はさみを使って開いていきます。エラ、口、眼などを観察し、切り取っていきます。エラにオキシドールをかけると、青く変色します。これは、イカの血液の成分に銅が含まれているからだそうです。そのほか、イカの心臓は3つあるなど、発見の多い授業でした。

旭小学校に届けられた「サナダミズヒキガニ」、確かに細長い足が、水引に見えます。深さ30m~300mあたりの海に住んでいるらしいです。観音崎自然博物館の山田先生によると、網にかかっても、このようにきれいな形で残ることは、めずらしいそうで、漁師さんが丁寧に外してくれたのだろう、ということです。ありがたいことです。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで